

# フグの毒

フグの毒は何に由来しているのでしょうか？

また、フグの毒が体に入るとなにがおこるのでしょうか？

フグが持っている毒はテトロドトキシンと呼ばれています。とても強力で、わずか0.5gほどで人間は死んでしまいます。熱に強いので、煮ても焼いても無毒化することはできません。

実はこの毒、もともとフグが作っているものではありません。海の中に住んでいる細菌が作ったものなのです。それが貝やヒトデなどにたまり、これをフグが食べることでフグに毒がたまっていくのです。

フグ毒は体の中に入ると神経をマヒさせてしまうことが分かっています。普段、神経には弱い電気が流れていて、これによって信号を伝えていくのですが、フグ毒はこの電気をストップさせてしまうのです。

これによって、体や心臓、肺を動かす神経などもマヒしてしまい、体がしびれたり、呼吸困難になったりします。



海でふつうに見られるクサフグ。肉にも毒があるので、食べるのは非常に危険。

